

# JICA シニアボランティアとしてカンボジア観光省で働く高知県人の話

## ① 自己紹介など

JICA シニアボランティアとして 2017 年 10 月 3 日よりカンボジアの首都プノンペンにあるカンボジア観光省マーケティング&プロモーション局に配属されている西村清志郎（にしむらせいしろう）と申します。高知市春野町出身、昭和 49 年 2 月生まれの 44 歳です。

高知では、龍馬学園観光学科（今はない学科）を卒業し、その後、地元にあるジーンズファクトリー（アパレル会社）に入社。5 年ほど働き、25 歳になったタイミングでオーストラリアに 4 年ほどワーキングホリデー&留学をしていました。そして現地の学校を卒業し、30 歳になった段階でカンボジアの孤児院でボランティア英語教師をすることになったのですが、3 ヶ月目に全財産を盗まれてしまい、航空券代を稼ぐために現地の日系旅行会社でガイドとして働くことになりました。



写真/孤児院での生活 2004 年（著者：真ん中）

その後 10 年ほどその会社に在籍したのですが、そちらの主な業務は新事業の立ち上げとなり、旅行会社、出版社、飲食店、宿泊業、お土産店、不動産、製造販売、ライセンスビジネスなど、様々な事業を行っていたのですが、年齢なども考え、40 歳前に、そろそろ次のステージをと思い退社し、自分の事業を始めました。

青年海外協力隊ですが、実のところ、3 回目の応募でやっと合格となりました。最初は 20 年ほど前にアパレル会社を辞めたタイミングで観光案件に応募したのですが、実力不足もあり不合格。その後、自分のキャリアパスの一つとして 40 歳前に再び会社を退職したタイミングで再度観光案件に応募したのですが、語学力審査で不合格。3 度目の正直という言葉がありますが、まさに 3 度目、43 歳で無事合格となりました。

## ② カンボジアについて

カンボジアと言ってもあまりご存知ない方も多いと思いますが、タイとベトナムの間にある小さな国であり、国の名前よりも「アンコールワット」という世界遺産の方が有名な国です。また一昔前だと「地雷」「内戦」「貧困」などのキーワードが一般的だったのですが、現在は世界銀行の基準で「低所得国」から「低・中所得国」に格上げされており、急激な経済成長、開発などが進んでいます。国の面積は日本の半分ほど、人口は 1600 万人ほどですが、日本とは大きく異なり、平均年齢は 25 歳未満、つまり今後大きく伸びていく確率が高いまだまだ若い、元気な国でもあります。

日本との時差は 2 時間しかなく、成田からプノンペンへ全日空の直行便が毎日運航（6 時間程）されていますので、比較的気軽に訪問することができます。





写真/カンボジアで最も有名な遺跡、世界遺産アンコールワット



写真/経済発展が進むプノンペン。手前は王宮。

### ③ 活動内容について

現在、首都プノンペンにあるカンボジア観光省マーケティング&プロモーション局に配属されています。こちらでの主な業務ですが、(JICA での募集内容にはいろいろ堅苦しく書いていますが) シンプルに訳すと「日本人観光客をもっとカンボジアに呼んでほしいけど、どうすればいいのか教えて」というものでした。



写真/カンボジア観光省外観

もともとカンボジアで10年以上旅行業界に携わってきたこともあり、また配属先である観光省とは、いろんなイベントを一緒に行っていたため、配属先担当者も見知った顔、また現地で使用されているクメール語も日常会話程度は理解できていたので、配属後すぐに派遣期間内にやれることをリスト化し、地元スタッフとともに業務を進めることとなりました。感覚で言うと、今までのオフィスが観光省内に変わっただけで、それまでやっていた仕事の延長線上の業務を行うことになったという感じでした。

配属されて1年、やってきたことと言えば、日本で行われるカンボジア関連のイベントや旅行博の補助業務、カンボジア大学生の訪日スタディツアー、国内イベントの広報業務、各種撮影や原稿書きなどです。

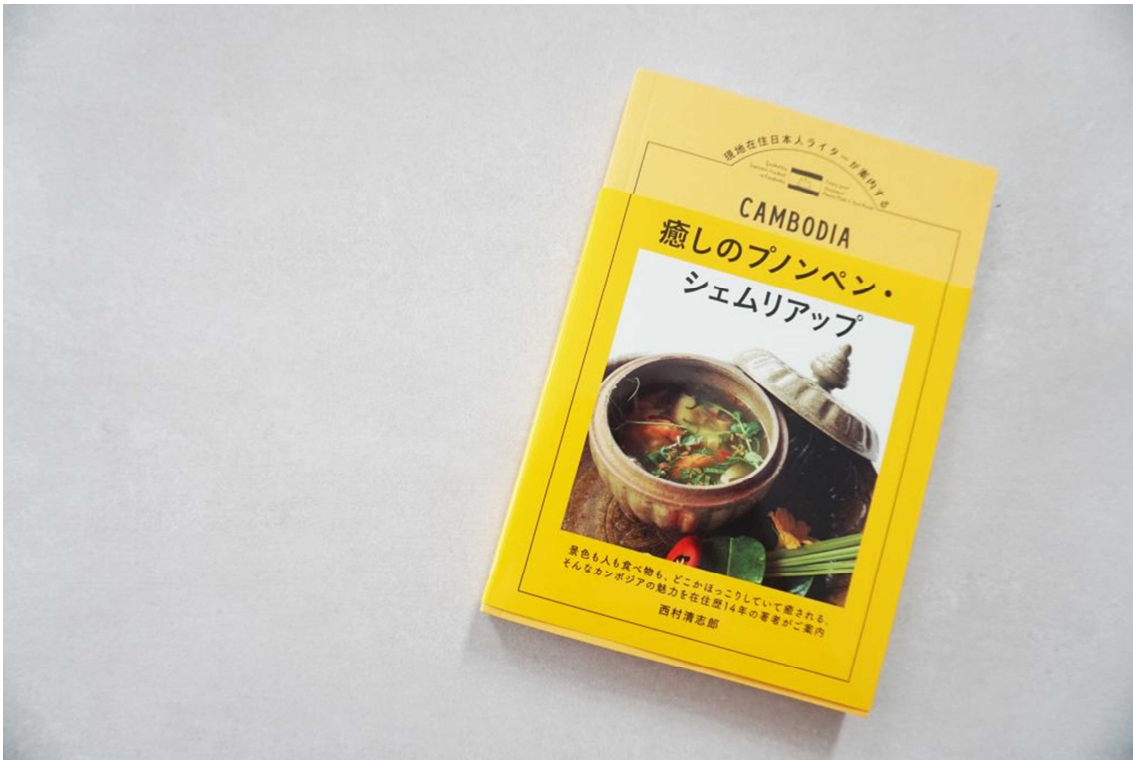




東京 JTB 本社にて、観光省トンコン大臣と JTB 高橋社長との会談（著者：左端、上段）



写真/ツーリズムエキスポにて、カンボジア観光省ブース出展



写真/派遣先業務の一つとして出版した書籍「癒しのプノンペン・シェムリアップ」(2018年7月発行 徳間書店)



写真/カンボジアの大学生と駒沢女子大学との文化体験ツアー。東京にて(著者:左端、上段)



1年も経つと、省内の動きや、同僚スタッフの個性がだんだん分かってきたのですが、同僚たちの仕事に関して言うと、アジア特有ののんびり感ではありますが、日本人ボランティアがあれこれ口出ししなければならないほどのものでもなく、(日本人のペースからすると歯痒いこともあります)彼ら自身のペースで適切に業務をこなして行っています。実際、「日本の常識は世界の非常識」、「郷に入っては郷に従え」という言葉を体感することも多いですが、日本のペースでのやり方を押し付けると、彼らとのペースを乱すだけでなく、マイナスに作用することも多々ありますので、気になったことがあっても「一案としてこういうのはどうかな？」と提案をする程度に留め、最終判断は彼らに委ねるというやり方で業務を行っています。

実際に、彼らのペースでやった方が、他の関係省庁との業務連携が上手くまわったりするので、国全体がそういうシステムなんだという事情を理解して、業務を行っていくことが大事だと感じています。(と言っても、僕自身カンボジア生活も長く、むしろ彼らと同じペースでの仕事が普通なので、歯痒く感じることもないですけどね)



写真/ カンボジア国内で最大規模の旅行博にて、派遣先部署のみんなと(著者:左端、上段)

#### ④ 今後について

シニアボランティアは基本2年間の派遣となります。2018年10月3日で1年が経過し、残り1年足らずで、自分のボランティア任期は終了となるのですが、お会いする方の多くから「任期が終わったらどうするのか?」と聞かれます。実のところ、明確に次のステージが

決まっているわけでもないのですが、まずは協力隊に入るまでの自分の観光に関する経験、キャリア、ネットワークに、協力隊に参加したことで得られたことなどを追加し、観光という柱を軸に、教育関係、国際協力などに関係する仕事を、少なくとも自分の中でブレがない一本の道を進めるような仕事が見つけられればと考えています。

現在、観光省での業務の傍ら、現地の大学（夜間）にて観光学を学んでいます。実際の経験を通して学ぶことも多いのですが、学校で理論的、体形的に学ぶことも面白く、また、地元の大学生と一緒に学ぶことで得られる発想や経験なども多くあります。

また、それがきっかけとなり 2018 年 11 月には業務の一環として、カンボジアの大学生と一緒に日本に行き、日本の大学で文化交流会を開催しました。言葉の壁もあり最初は恥ずかしがっていた学生たちでしたが、すぐに打ち解け合い、お互いに笑顔を見せながら、互いの文化を一生懸命紹介しているのを見ると、大変だったけどやってよかったなと思いました。

残り 1 年もありませんが、そういった経験やネットワークを今後も増やしていき、将来的に、カンボジア、日本を観光、教育の視点で繋いでいき、より多くのカンボジアの人たちや日本人の笑顔が見られるようになればいいなと思っています。

また、何らかの形で高知県とカンボジアを繋ぐことはできないかとも考えております。カンボジア人の訪日旅行先であったり、スタディツアーでの交流、姉妹都市提携、メディア向け旅行なども、様々な角度で、きっかけになればと思いますので、何でもお声掛けください。

その他、[個人ブログ](#)やフェイスブックにて情報配信を行っております。ご興味のある方、カンボジアに来られる予定の方、JICA ボランティアや活動について知りたい方などお気軽にご連絡くださいませ。

個人ブログ Office seishiron → <http://seishiron.com/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/seishiron>

氏名：西村清志郎（にしむらせいしろう）

出身：高知市春野町

職種：観光

派遣国：カンボジア

配属先：カンボジア観光省マーケティング&プロモーション局

隊次：2017 年度 2 次隊（2017 年度 10 月 3 日～2019 年度 10 月 2 日まで派遣）



写真キャプション

Cambodia travel mart / カンボジア国内で最大規模の旅行博にて、派遣先部署のみんなと  
(著者：左端、上段)

Meeting with JTB / 東京 JTB 本社にて、観光省トンコン大臣と JTB 高橋社長との会談 (著  
者：左端、上段)

Ministry of Tourism /カンボジア観光省外観

Study tour Komazawa / カンボジアの大学生と駒沢女子大学との文化体験ツアー。東京に  
て (著者：左端、上段)

Travel Expo: ツーリズムエキスポにて、カンボジア観光省ブース出展

Angkor Wat / カンボジアで最も有名な遺跡、世界遺産アンコールワット

Iyashinocambodia / 派遣先業務の一つとして出版した書籍「癒しのプノンペン・シェムリア  
ップ」(2018年7月発行 徳間書店)

Phnompenh / 経済発展が進むプノンペン。手前は王宮。